



THE SERVICE CLUB OF THE Y.M.C.A.

THE Y'S MEN'S CLUB OF NANZAN

- 国際会長主題 「とにかくやろうー成せば成る」
- アジア会長主題 「とにかくやろうー成せば成る」
- 西日本区理事主題 「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」
- 中部部長主題 「楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」
- クラブ会長主題 「返事は“へいほ!!”と気持ちよく」



2011年9月

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

会 長 浅井 昭 and 副 会 長 小塚 英史 書 記 森本 征夫
 会 計 小林 滋記 直前会長 近藤 豊 連絡主事 中井 信幸



今月の聖句

「主よ水の上を歩いて そちらにいかせてください」

マタイによる福音書 14 章 28 節

9 月例会案内

第一例会

日 時：9月8日（木） 19時～21時
 場 所：南山YMCA
 「夏のプログラムを終えたリーダーを迎えて」
 園庭にてB、Q
 会 費：1,000円
 担 当：小林君

第二例会

日 時：9月15日（木） 19時～
 場 所：南山YMCA
 議 題：1. 10月プログラム作成 第一例会、
 バザー、フェロシップなど
 2. その他

「IBC台北クラブ訪問とアジア大会参加報告」
 参加された浅井君、近藤君、森本君からDVDを見ながらご報告頂きました。詳細は近藤君の報告をご覧ください。

8 月第二例会報告

日 時：8月18日（木） 19時～
 場 所：南山YMCA
 出 席：浅井、荒川、小林、近藤、杉山、森本、
 1. 9月第一例会決定
 2. その他

第24回アジア大会とIBC報告

8月4日～8日の日程にてアジア大会と合わせてIBC交流をしました。

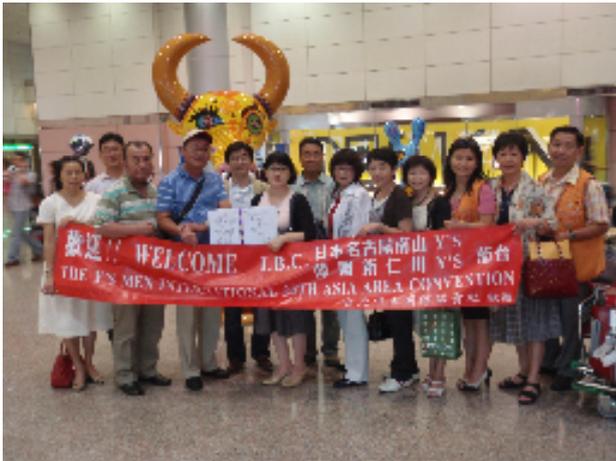
8月4日セントレアにて集合し、チャイナエアーC1151便にて台北へ向け出発、同機にはアジア大会参加の他クラブメンバーも乗り合わせました。桃園空港に着くと台北中正クラブメンバーと少し遅れて、韓国仁川クラブメンバーと合流。昨年国際

8 月第一例会報告

日 時：8月11日（木） 19時～21時
 場 所：南山YMCA
 出 席：浅井、荒川、小林、小塚、近藤、杉山、
 深尾、森本、

8 月報告	在籍 9 名	第 1 例会出席	第 2 例会出席	メイクアップ	出 席 率
		8 名	6 名	1	100%

大会に参加した、朴会長夫妻の2名です。



台北中正クラブメンバーの車に乗り合わせ猫空（マオコン）のケーブルカーにて空中散歩を楽しみました。

歓迎会は東日本大震災に会われた人々に黙祷、台北中正クラブ何錫賢会長、名古屋南山クラブ浅井会長、新仁川クラブ朴さんの三人の挨拶により始まり、これからも良きパートナーで有ることを誓いました。



8月5日宜蘭亜細亜州大会受付会場にはいりました。668人の参加（日本185・韓国52・フィリピン29・タイ5・香港19・シンガポール3



西日本区総メンバー集合写真

他)。14時に開催 各エリアのフラグ行進入場とスケジュール通りにて進みました。19時30分より晚餐、宜蘭光復国小民族楽団の生演奏。

8月6日は東日本大震災報告、EMC、CS、TOF、YMCA/YIAに分かれての報告。昼食後3組に分かれエクスカージョン。当クラブは三清宮とウイスキー蒸留所（金車酒店）見学です。試飲は日本のようには行かず、コップに少し一回のみでした。誰かさんには物足りないようでした。



8月7日大会をパスして宜蘭から電車で花蓮へ。花蓮駅から観光バスにて太魯閣の溪谷と台湾原住民のお店で昼食



七星浜にてコーヒブレイクと魚市場に似た鯉節を作る工場見学花蓮に戻り夕食 花蓮晶典リゾートホテルにて宿泊。

8月8日花蓮より電車にて宜蘭へ電車内では富士のワイズマンが乗っていました。宜蘭から空港までメンバーの車にて送っていただきました。台北中正クラブの会長何さんとメンバーには大変お世話になり感謝感激です。韓国が新しくエリアとして独立しましたが、横浜、宜蘭に続き今年度もどこかで3クラブでの交流を深めたいものです。

中部評議会報告

以下の議案が提案され全て可決されました。

- (1) 全年度事業報告
- (2) 前年度会計報告及び監査報告
- (3) 本年度部長方針及び事業計画
- (4) 本年度会計予算
- (5) 次期中部部長及びホストクラブの確認
- (6) 次々期中部部長の件
- (7) 部則改定に関する件
- (8) 部会献金の贈呈先について
- (9) その他



第15回中部部会報告

日 時：8月28日（日）13：30～

場 所：名鉄ニューグランドホテル

出 席：浅井、荒川、荒川メネ、小林、杉山、中井、森本、

部会では評議会報告、参加者紹介、入会式などありました。津クラブの新メンバー亀野 真君が入会式を受けましたが、亀野君は、50年前の名古屋YMCAの少年部のメンバーで小生がリーダーをやっていた時のメンバーです。昨年50年ぶりに南山YMCAのバザーに突然顔を出し話をしたのがきっかけで、津クラブに入会しました。YMCAでの子供時代が忘れられなくまたYMCAに参加してくれました。うれしい限りでした。



その後、東海テレビアナウンサー 高井 一（ハジメ）による記念講演が行われました。高井氏は、東海テレビの番組作成のキーパーソンでもあり、先日の同局の不祥事にも触れられましたが、氏の飾らない清潔な真面目な人柄に触れると、何故あんな不祥事が起きたのかと改めて不思議に思います。一刻も早く高井氏の思うような番組になってほしいと思いました。

高井氏の講演は、目下氏が出演している「スタイル プラス」の作成裏話を通して、現代の日本語の乱れ、また心配に至る興味ある話でした。色々なテレビ局で行っている「町歩き」がありますが、大半は出演者のタレントが主役になり、その街に住む人、生活がサブになってしまうが、高井氏の番組では、出演者がサブで町、街の人、その生活を主役にしたい、とのことでした。そのために使う言葉に気をつけ、生活が引き出せるようにしている。また街を歩いて気がつくことは、高齢のひとが多く、子供の少なさであり、そこにも言葉のギャップを感じるそうです。

日本語には、「てにをは」があり、その使い方がぶれば日本語は変わってしまいます。意味の分からないカタカナ日本語の氾濫、意味の分からない省略、短縮形、またイントネーションの違う日本語の氾濫を見ると日本語そのものの将来に不安を覚える。こういった日本語を正しい意味の日本語では、なんというか、を考え「てにをは」を付けるだけかなり違ってくると思う。また若者との世代ギャップも大きな問題であり、自己中的に話す若者言葉も問題である。どこが悪いのかすら分からない若者とのコミュニケーションの中で、どう教育していくこ

高井氏の講演は、目下氏が出演している「スタイル プラス」の作成裏話を通して、現代の日本語の乱れ、また心配に至る興味ある話でした。色々なテレビ局で行っている「町歩き」がありますが、大半は出演者のタレントが主役になり、その街に住む人、生活がサブになってしまうが、高井氏の番組では、出演者がサブで町、街の人、その生活を主役にしたい、とのことでした。そのために使う言葉に気をつけ、生活が引き出せるようにしている。また街を歩いて気がつくことは、高齢のひとが多く、子供の少なさであり、そこにも言葉のギャップを感じるそうです。



とが大切なのかも暗示されました。日本人の得意とする「以心伝心」には、共通認識が無ければ成り立たず、世代ギャップでは、その共通認識が無くなってきている。よって若者との「以心伝心」が成立しないこともあり、日本語文化の変化も来たし欠けている。と話されました。英語を通して言葉の教育に携わっている小生にも同感できることばかりで、人ごとならず心配になってきます。そんな意味で非常に有意義な講演でした。

講演会の後は懇親会、開会に先立ち、YMCA講師の近藤さんの宮沢賢治の詞の朗読、アルパ〔南米パラグアイの民族楽器〕の演奏がありました。ハーブのような楽器ですが、何か明るさと哀調を併せ持った面白い学期でした。参加者140名と予想よりかなり多く大変にぎやかな会でした。久しぶりに会う他クラブの人達との談笑、会話 次年度のことが無ければ楽しい会なのに、と恨めしく思いました。



8月 日和田高原キャンプ場報告

7月22日よりキャンプ場に入り、準備を始めました。グランパスワイズの方にもお手伝いいただき、草刈り中心で清掃作業などに汗を流しました。終わった後はみんなでバーベキュー。山菜のてんぷらなども出てきて楽しい雰囲気の中での夏のスタートを切ることができました。その後キャンプまでの期間で、草刈りの続き、テントサイトの土台作り、備品の修理と補充、清掃の徹底、保健所の検査等々…。毎日夜10時くらいまで作業が続きました。ただ天気は見方してくれず、雨が1日の中で必ず降ってなかなか外での作業が進まず苦労しました。父と子キャンプは震災の影響で土日が休みでなくなり「参加できない!!」という声が聞かれ、去年よりかは少な

くなりましたが楽しい雰囲気で行いました。

いよいよ8月6日からのおまつりキャンプとエンジョイキャンプがスタートして、一気にキャンプ場は100人以上になりました。全ての部屋が埋まり、名星舎まで子どもたちが宿泊しました。嵐のような3日間でした。またグランパスワイズが屋台をだしていただいたことも感謝いたします。

今年は長期キャンプがなく、震災の影響も考えて5泊6日のキャンプを行い、今後長期キャンプに参加するコアなメンバーを育成していくことにしました。また震災と原発の問題で福島県から4名の子どもたちが参加しました。初めはなじめるか心配でしたが子どもたちは心配をよそにすぐに打ち解けて遊ぶことができていました。また発達障がいの子どものパレットキャンプ（レインボーキャンプ）にはプラザワイズが釣りのお手伝いをいただき、その魚を焼いて食べることもできました。また今年は、乾燥機や七曲の山道に外灯が付いたり、BSのテレビがついて災害情報を得たり（中井の趣味か娯楽というわさもありますが…）いろいろと改善された部分もありました。いつものようにプログラムが行われましたが、みなさんのご協力があってプログラムが安全に勧められたことに感謝いたします。

（中井 記）

例会出席表

		8 / 11	8 / 18	8 / 28	8 / 28
		第一 例会	第二 例会	評議 会	中部 部会
1	浅井 昭和	○	○	○	○
2	荒川 文門	○	○	○	○
3	小林 滋記	○	○		○
4	小塚 英史	○			
5	近藤 豊	○	○		
6	杉山 弘時	○	○	○	○
7	中井 信幸				○
8	深尾 俊雄	○			
9	森本 征夫	○	○		○